

# 令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣特別支援学校

学校番号

109

## 自己評価

<p>学校教育目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな教育を行うことにより、一人一人の可能性を最大限に伸ばす。さらに、「強く 明るく 仲良く」生きようとする意欲を高め、一人一人の自立と社会参加を目指し、基礎的・基本的な力を身に付け、「生きる力」を育む。</li> </ul>
<p>評価する領域・分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動全般</li> </ul>
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度と比較し肯定的評価が増加した項目として、小学部では「進路情報提供」、中学部では「学校間交流の積極的な参加」、高等部では「豊かな専門知識」が挙げられた。それぞれの部で積極的に取り組んできた活動が評価につながったと考えられる。また、各部が共通して「児童生徒への愛情」についての肯定的評価が高く、今後も継続的に支援していきたい。</li> <li>・各部で肯定的評価が低かった「地域に開かれた学校づくり（地域ボランティア活動等）」「働き改革への努力」については、教育活動の情報発信の仕方について工夫したり、地域活動への積極的な参加を行ったりするなど、地域に根付いた学校運営が求められる。教職員の働き方改革については、保護者にとっては直接的には分かりづらいところがあると考えられる。</li> </ul>
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 個の教育的ニーズに応じた支援の充実を図る</li> <li>(2) 「連携」を大切にされた教育活動の充実を図る</li> <li>(3) 働きやすい職場づくり（教職員の働き方改革プラン2024）を推進する</li> </ol>
<p>目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育にかかわる専門性の向上を図るための研修部を中心とした校内研究の充実。</li> <li>・将来につながるキャリア教育の充実を図るための防災安全部、進路支援部を中心とした学校行事の見直し。</li> <li>・系統性のある支援を充実させるための、小学部、中学部、高等部の連携。</li> <li>・地域の特別支援教育のセンター的機能としての充実を図るための支援センター相談室「きらり」の運営。</li> <li>・業務内容の見直し、改善、ICTの活用等による効率化。</li> <li>・認め合い、助け合い、高め合える職場環境作り。</li> <li>・管理職を中心とした働き方改革プラン2024の周知・推進。</li> </ul>
<p>目標の達成に必要な具体的取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャリア教育」「3つの柱（知識及び技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力と人間性）」の観点を踏まえて作成した評価表を生かし、改善点を明確にした授業改善に取り組む。</li> <li>・年4回の命を守る訓練等における事前及び事後指導の充実を図るとともに、訓練により命を守る行動の定着化を図る。また、職員防災力テスト、家庭の減災力テストの実施、専門家を講師として行う防災研修を実施し、職員・家庭の防災・減災意識の向上に努める。</li> <li>・進路支援部長による、小学部保護者への進路講話を実施する。</li> <li>・主事会を中心に、各部行事の見直しや改善を図る。</li> <li>・支援センターを中心に、地域の小・中・高等学校での特別なニーズを要する児童生徒・職員への支援を図る。</li> <li>・各分掌や各部での業務の見直しによる削減や効率化に向けた取組を積極的に進める。</li> <li>・退庁時刻の遵守を徹底する。また、業務が偏在しないよう校内組織の見直しを図る。</li> </ul>
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の充実感や達成感の把握</li> <li>・保護者アンケートや保護者懇談等での意見・要望</li> <li>・学校運営協議会等、外部機関からの意見や評価</li> </ul>
<p>取組状況・実践内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領における3つの柱やキャリア教育の4つの能力を意識した授業づくり、「できる状況づくり」「キャリア教育段階表の活用」等、この3年間取り組んできた内容を授業づくりに生かし、児童生徒の主体的な姿を引き出すことができる実践の創造に取り組んだ。</li> <li>・命を守る訓練を様々な状況を想定して計画的に実施した。また、水害や火事を想定した</li> </ul>

	<p>訓練（煙道体験）も行き、児童生徒の避難方法について職員間で確認した。防災に関する専門家を招いた講習会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員一人ひとりが適正な業務内容となるよう、分掌長を中心に見直しを図った。</li> <li>・会議等の精選や退勤時間の励行等の言葉掛けを実施した。また、退勤時間を超えての従事について、事前申告書を提出するよう、呼び掛けた。</li> </ul>
評価の視点	評価
・個の教育的ニーズに応じた支援の充実を図ることができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
・「連携」を大切にされた教育活動の充実を図ることができたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
・働きやすい職場づくりを推進することはできたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
成果・課題	総合評価
<p>○評価表を活用することによって、児童生徒の実態把握を多角的に行い、学習指導要領の3つの観点やキャリア教育の視点を意識した上で、個のニーズに応じたきめ細かい支援を考え出すことができた。</p> <p>○「おはしもち」やシェイクアウトの姿勢が児童生徒に定着してきた。また、防災に関する専門家を招いた講習会では、能登半島地震の状況から当校での対応や課題について考えることができた。</p> <p>○進路指導部長による小学部保護者への進路講話は、将来を見通したキャリア教育を考える点において効果的だった。</p> <p>○西濃圏域における特別なニーズを必要とする幼児、児童生徒、また、かかわる職員への支援を積極的に行うことができた。</p> <p>○昨年度の成果や課題を基に、分掌業務の見直しや分掌間の連携を軸に、業務の平準化・効率化を進めることができた。また、会議等の精選や退勤時間の励行等の言葉掛けにより、勤務時間の削減意識が高まってきた。</p> <p>▲3年間の研究で得た知見や高めた専門性を校内でさらに広めていくとともに、地域にも発信をしていくなかで、相互に高め合える関係性を地域でつくり、さらなる専門性の向上に努める必要がある。</p> <p>▲地域の園・小・中・高等学校の特別支援教育に関する相談活動において、的確な助言ができるよう、相談員を含めた全職員の専門性の向上を図る必要がある。</p> <p>▲小・中・高等部を見通したキャリア教育の充実を図る必要がある。</p> <p>▲業務の偏在は減少傾向ではあるものの、十分ではない。さらに業務の平準化・効率化を目指して学校組織、学校行事の見直しを行っていく必要がある。</p>	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育に関する校内研修や研究授業、また、地域の小中学校や外部関係者等、地域に向けた公開授業研究会の実施による教職員の専門性の向上</li> <li>・進路支援部を中心とした各学部のキャリア教育の充実</li> <li>・教職員のやりがいと指導の充実をめざした校内分掌業務と組織の見直し</li> </ul>

学校関係者評価（令和7年3月開催）

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症が5類になってから、外部との交流が活発になってきた。来年度も積極的に進めてほしい。</li> <li>・市民懇談会で、中学校1年生の生徒が学校間交流をきっかけに、将来、特別支援学校の教師になりたいと話していた。交流する中で、障がいのある子への見方が変わったとのことで、うれしく感じた。</li> <li>・子どもに寄り添う職員の姿には愛情を感じる。社会に出ることを考えると、時には厳しさを知ることも必要ではないかと思う。</li> <li>・児童生徒が地域の人とのかかわりをさらにもつためには、どのような活動があるのか考えていきたい。</li> <li>・子どもたちが中心にいて、周りがさまざまにかかわる「プレイヤーズセンター」という考え方で、支援していきたい。</li> <li>・共生社会を実現していくためにも、学校からの情報発信を積極的にしていきたい。</li> </ul>
---

